

本誌に対する電話でのお問合せの際には
おかげ間違いのないようお願いいたします。

ヴィルヘルム・レントゲン



モノづくりの偉人たち vol.08

レントゲン撮影やCTスキャナなどに利用されているX線。ドイツの物理学者、レントゲンによって発見され、今や診断とがん治療の両方に欠かせない。

19世紀末、陰極線の研究をしていたレントゲンは、真空管内のマイナス極から出る青白い光の正体を解明するため、真空管を黒い紙で覆つてスイッチを入れてみた。すると、光りはもれていないのにもかかわらず、そばに置いてあつた蛍光物質を塗った紙が発光したのである。分厚い本などで遮つても紙は光り続け、手を差し入れるとなんと骨が投影されたのだ。これにより物を透過する光線が出ていることに気づいたレントゲンは、この光線をX線と命名。この功績で、1901年に栄えある第1回ノーベル物理学賞を受賞したのである。

ヴィルヘルム・
レントゲン
Wilhelm
Conrad
Röntgen
1845年
—
1923年



本誌は裏表紙にやさしい
植物油インキを使用しています。
参考用
集英社刊
学習漫画「世界の伝記」別冊「世界の発明・発見事典」

建設業法における株式会社 日立産機システムが有する許可
○平成27年7月19日国土交通省大臣許可(第27第4000号)
○官署事業、機器器具設置事業、電気通信事業、印刷業工事業
○平成27年7月19日国土交通省大臣許可(第4217号)
電気工事業



メキシコラクウショウ

メキシコ合衆国 オアハカ州

メキシコの国の木にも指定されているメキシコラクウショウは幹が太い。世界で最も太い木とされる「トゥーレーの木」と呼ばれる大樹は、30人で手をつなぎないと取り囲めないほど。幹のあちこちにできた節くれが、さまざまな生き物の姿に見えることから、「生命の樹」の愛称でも親しまれています。